

2016年9月7日

マーケットレポート 2016年8月号

日本

前月の振り返り

◆経済状況

8月26日に総務省が発表した消費者物価指数(7月分)によると、生鮮食品を除く総合指数は前年同月比▲0.5%の下落となり、5ヶ月連続のマイナスとなりました。この下落率は、日銀の黒田総裁が大規模金融緩和に踏み切る直前の2013年3月以来の大きさです。

◆株式市場

8月、日本株式市場は上昇しました。月前半は、円高が進行したことに伴い、16,000円に近づく水準まで下落する局面がありました。中旬以降は為替相場の動きをにらみながら株価は一進一退となりましたが、下旬に米連邦準備理事会(FRB)のイエレン議長の発言から利上げ観測が高まったことで円安が進行し、株価が上昇、日経平均株価は7月末比1.92%の上昇となりました。

◆債券市場

8月、10年国債の利回りは上昇(価格は低下)しました。7月29日に日銀がこれまでの金融政策の総括的検証を行うと発表したことから、8月は今後の金融政策の不透明感から債券が売られ、10年国債の利回りは7月末比0.11%上昇しました。

◆今後の見通し

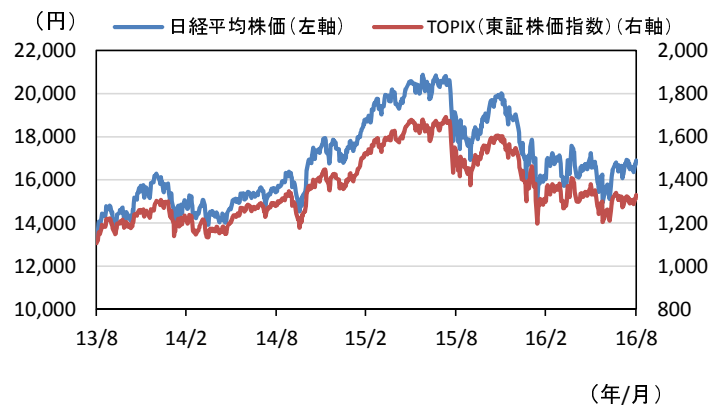
日銀が9月に予定する金融政策の総括的検証の内容や、米国の利上げの有無など、今後の金融政策の方向性に注目が集まります。日本市場はこれらの方向性を見極めつつの展開となることが予想されます。

【消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)】

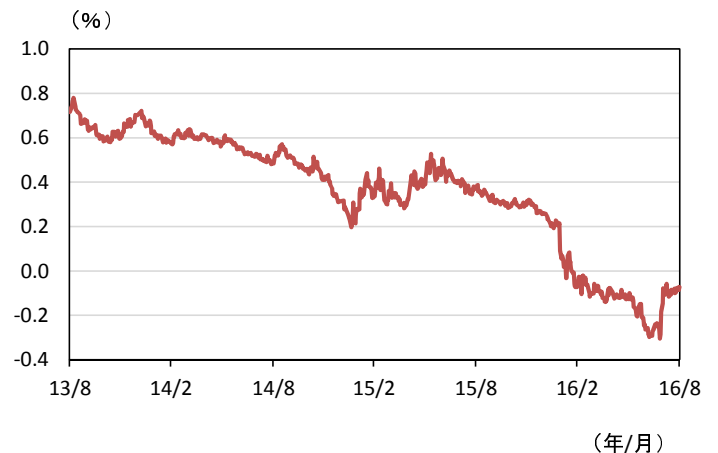
2016年

	3月	4月	5月	6月	7月
指数	99.5	99.8	99.9	99.8	99.6
前月比(%)	0.1	0.3	0.0	0.0	-0.2
前年同月比(%)	-0.3	-0.4	-0.4	-0.4	-0.5

【株価の推移】



【10年国債の利回りの推移】



		8月末	7月末	月間騰落率
株式	日経平均株価(単位:円)	16,887.40	16,569.27	1.92%
	TOPIX	1,329.54	1,322.74	0.51%
債券	10年国債利回り	▲ 0.073	▲ 0.184	0.111

※債券の騰落率は利回りの変化幅です。

(出所)QUICK FactSet WorkstationのデータをもとにJP投信作成

米国

前月の振り返り

◆**経済状況**  
 8月5日(現地時刻)に発表された7月の非農業部門の雇用者数増加は、市場の予想を大きく上回る255千人という良好な結果となりました。26日にはFRB(米連邦準備制度理事会)のイエレン議長が講演で、雇用の改善や緩やかな経済成長が続くとの見通しなどを挙げ、利上げの条件が整ってきたとの見解を示しています。

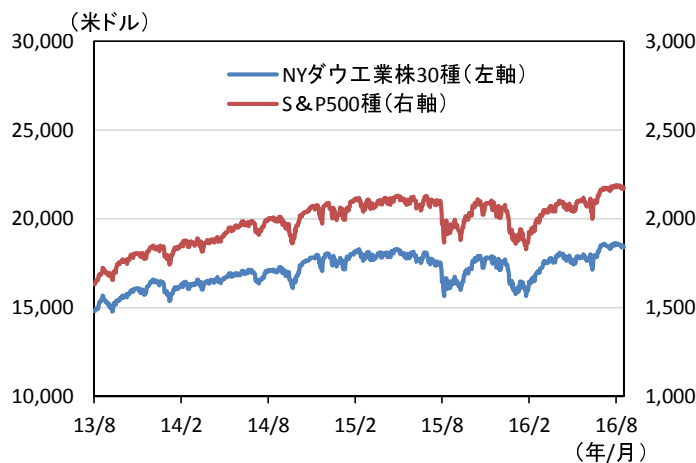
◆**株式市場**  
 米国の株式市場は、横ばいとなりました。7月の雇用統計の結果が市場予想を大きく上回る良好なものであったことから、景気の先行きに対する明るい見通しが広がり、主要株価指数が史上最高値を更新するなど、中旬ごろまでは株価が上昇基調となりました。一方、下旬にかけては、FRBのイエレン議長、フィッシャー副議長の発言などを受け、追加利上げ観測の高まりなどから、上値の重い展開となりました。

◆**債券市場**  
 米国の債券は、利回りは上昇(価格は下落)しました。雇用統計の良好な結果を受け、利上げ観測が高まり、売りが優勢となりました。

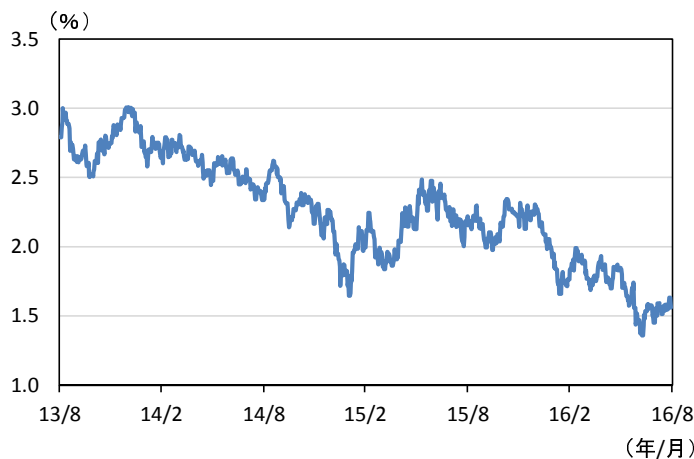
◆**為替**  
 ドル/円は円高・ドル安となりました。中旬には金融政策をめぐる見方が交錯し、一時1ドル100円を割る展開となりました。その後は、利上げが意識されたことにより、日米の金利差拡大観測から、ドル買い・円売りとなりましたが、月間を通じては円高となりました。

◆**今後の見通し**  
 8月の雇用統計や景気転換の先行指標として注目が集まるISM製造業景況感指数などの発表により、FRBによる利上げの動向が注目されます。9月の利上げを巡る不透明感や11月に予定されている大統領選挙による政治的な不透明感などから、株式市場では値動きの荒い展開が続く可能性があります。しかしながら、米国景気の緩やかな拡大や企業業績の改善などが見込まれることから、これらの不透明感が解消されれば、安定に向かうと見られます。

【株価の推移】



【10年国債の利回りの推移】



【為替の推移(対円)】



		8月末	7月末	月間騰落率
株式	NYダウ(単位:米ドル)	18,400.88	18,432.24	▲0.17%
	S&P500	2,170.95	2,173.60	▲0.12%
債券	10年国債利回り	1.581	1.452	0.129
為替	米ドル/円	103.18	104.42	▲1.19%

※債券の騰落率は利回りの変化幅です。

(出所)QUICK FactSet WorkstationのデータをもとにJP投信作成

欧州

前月の振り返り

◆**経済状況**  
 英国のEU離脱が決定となり、離脱が与える影響、離脱手続きの先行き不透明感から欧州株式市場は一旦下落しました。しかし、現時点においては影響が限定的であることから、株価は英国のEU離脱決定前の水準を回復、投資家心理にも改善がみられます。

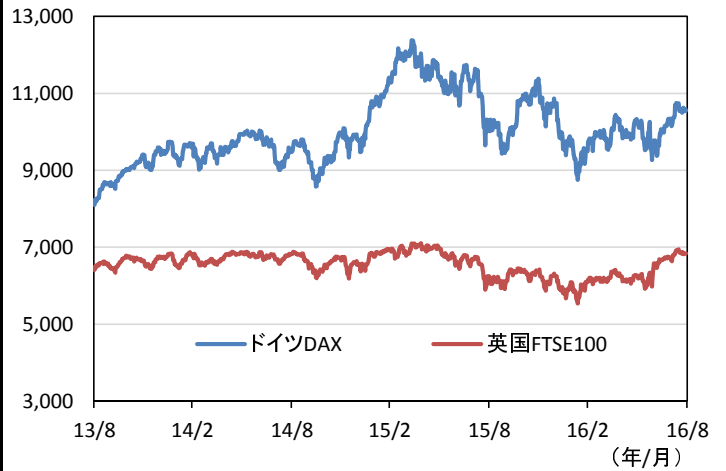
◆**株式市場**  
 DAX指数(独)およびFTSE 100(英)は上昇しました。DAX指数はEU離脱決定前の水準を回復後も堅調に推移し、FTSE 100はポンド安が英国企業の収益に寄与していると考えられることから上昇しました。

◆**債券市場**  
 ドイツ10年国債は利回りが上昇(価格は下落)、イギリス国債は利回りが低下(価格は上昇)しました。月間を通じて小幅な動きとなりました。

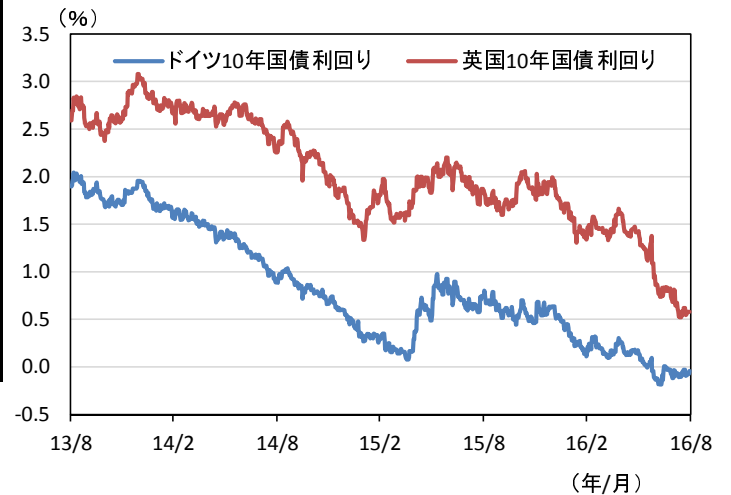
◆**為替**  
 ユーロ/円およびポンド/円は円高ユーロ安、円高ポンド安となりました。ユーロは月間を通じて小幅な動きとなりました。ポンドはイングランド銀行の金融政策委員が、追加的な量的緩和が必要と示唆したことから下落しました。

◆**今後の見通し**  
 ECB(欧州中央銀行)は9月8日に定例の理事会を開き、当面の金融政策について討議する予定です。その中で、ユーロ圏の景気見通しが下方修正されることが予想されます。一方、金融緩和策を打ち出すと予想されており、株式市場にとって追い風となる可能性があります。また、イタリアではレンツィ首相が自らの進退を賭ける「上院の権限縮小」と「県の廃止」を柱とする憲法改正の国民投票を今秋に控え、政治的な不確実性の増大と経済に与える影響から、不良債権問題を抱える銀行の再建に遅れが生じる懸念があります。

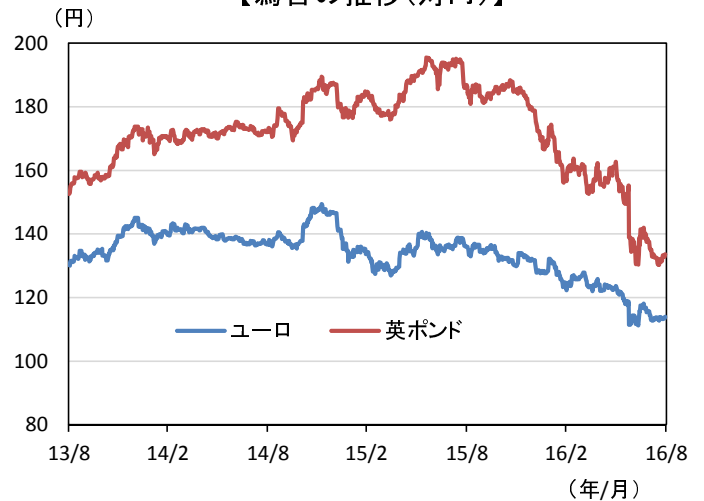
【株価の推移】



【10年国債の利回りの推移】



【為替の推移(対円)】



		8月末	7月末	月間騰落率
株式	ドイツ DAX	10,592.69	10,337.50	2.47%
	英国 FTSE100	6,781.51	6,724.43	0.85%
債券	ドイツ10年国債利回り	▲ 0.064	▲ 0.086	0.022
	英国10年国債利回り	0.541	0.717	▲0.176
為替	ユーロ/円	114.95	115.67	▲0.62%
	英ポンド/円	134.90	137.53	▲1.91%

※債券の騰落率は利回りの変化幅です。

(出所)QUICK FactSet WorkstationのデータをもとにJP投信作成

## 【ご留意事項】

- 当資料は、JP投信が投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申し込みの際は、最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

## JP投信

商号:JP投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2879号  
加入協会:一般社団法人投資信託協会

- 当資料は、JP投信が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではなく、証券取引の勧誘を目的としたものでもありません。